

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪新社屋建設プロジェクト	階数	地上6F 塔屋1F
建設地	大阪府豊中市三国	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条防火区域	平均居住人員	110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,200 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年2月25日
敷地面積	1,381 m ²	作成者	高嶋 宏平
建築面積	542 m ²	確認日	2022年7月14日
延床面積	2,527 m ²	確認者	臼井 明夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
本計画建物は良好な室内環境を保ちながら、建物外皮の熱負荷抑制や設備システムの高効率化を積極的に図る計画としている。	0	
Q1 室内環境 サッシにT-2サッシを採用し、室内への遮音に配慮し、また、照度センサーを設置し、外部環境に合わせて室内の明るさを自動で制御することで良好な室内環境に努めている。	Q2 サービス性能 汚れやすいトイレの内壁面、床面の仕上げは防汚性の高い内装材を使用することで維持管理に配慮するとともに、執務室は天井高2.7mを確保し、南面に大きな開口を設けることで開放感のあるオフィスとしている。	Q3 室外環境(敷地内) 人の通り道である前面道路に植栽を配置し、視点場からの良好な景観形成に寄与すると共に、周辺環境との調和に配慮している。
LR1 エネルギー 開口部に遮熱性の高いLow-Eガラスを採用し、太陽光発電、高効率空調、全熱交換機を設置することで一次エネルギー消費量低減を図っている。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具には自動水栓など省水型機器を採用しており、また雨水貯留層を設置し、植栽への散水に使用することで水資源保護に努めている。	LR3 敷地外環境 建物利用者のための適切な量の駐輪場、駐車場を設置し、車両の出入口を分けることで、周辺道路への交通負荷抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0007

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪新社屋建設プロジェクト					
	建設地	豊中市三国					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.6	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		